

施策の方向 III-3 生物多様性の保全

指標	方目標・現状・指標がめざす向
自然観察会等実施状況	【基準年度】生田緑地観察会：年36回開催 ほか（2009年度） 【指標がめざす方向】多いほうが良い
市内の動植物等確認種数	【基準年度】植物：1,451種、鳥類：166種以上 ほか（2009年度） 【指標がめざす方向】多いほうが良い
保全管理計画作成地区数	【基準年度】17地区（2009年度） 【指標がめざす方向】多いほうが良い

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
■指標：自然観察会等実施状況 ・生田緑地観察会：36回開催 ほか（対前年度：増減なし、対基準年度：増減なし）	なし*	2
■指標：市内の動植物等確認種数 ・植物：1,907種、鳥類：198種、哺乳類：18種、爬虫類：14種、菌類：576種（対前年度、増減なし、対基準年度：多い）	2*	
■指標：保全管理計画作成地区数 ・王禅寺東特別緑地保全地区など24地区の保全管理計画を策定（対前年度：1地区増加、対基準年度：多い）	3*	

[方向評価は「*」の付いた指標評価の平均値をもとに評価しています]

現 状

■自然観察会等実施状況

植物や昆虫、野鳥等の観察会を年36回開催しました。

■市内の動植物等確認種数

市域には次のような動植物等が生息しています。

- ・植物、菌類（出典：川崎市自然環境調査報告等）

種 類	名 称 等
植物	全市：1,907種 ツバ、クサの二次林を主体にツバ等の自然植生残存、ツバ、クサ等の塩沼植生等
菌類	全市：576種 タマゴタケ、エノキタケ、アラゲキクラゲ等

- ・鳥 類（全市：198種）（出典：川崎市自然環境調査報告等）

地 域	名 称
臨海部	スズガモ、シギ・チドリ 類 等
内陸平野部	ウグイス、コサギ 等
北部丘陵部	シロハラ、アオゲラ、オオタカ 等

- ・小動物（出典：川崎市自然環境調査報告等）

種 類	名 称 等
哺乳類	全市：18種 タヌキ、ノウサギ、イタチ、アブラコウモリ 等
両生類・爬虫類	全市：22種 ニホンアカガエル、アズマヒキガエル、アオダイショウ、カナヘビ 等

- 魚 類（全市：50 種）（出典：川崎市自然環境調査報告等）

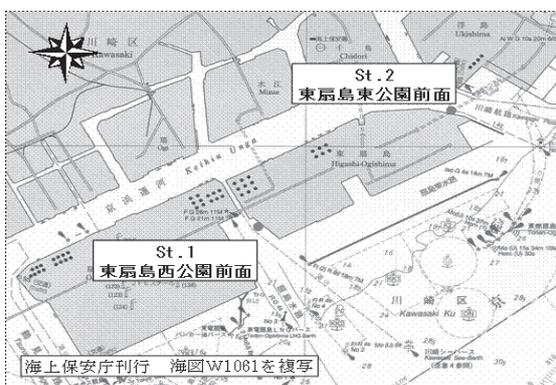
種 類	名 称
魚類	ホトケドジョウ、アユ、オイカワ 等

- 昆 虫（出典：川崎市自然環境調査報告等）

種 類	名 称 等
トンボ	全市：55 種類 ギンヤンマ、オニヤンマ、シオカラトンボ 等
チョウ	全市：71 種類 ゴマダラチョウ、ゴイシシジミ 等

- 水生生物（出典：川崎港親水施設生物調査業務委託報告書（H25.5・H25.12））

地 域	名 称
川崎港親水施設	アカオビシマハゼ、マル、アケ、ハコ科、ウミナギ 類等（5 月）、ウキコノ科、ウツコノ科等（12 月）の魚類 ホトケドジョウ、アユ、オイカワ 等（5 月）、ホトケドジョウ、ウキコノ科、ウツコノ科等（12 月）の魚類以外の水生生物



川崎港親水施設生物相調査地点



川崎港親水施設のアカオビシマハゼ

■ 保安全管理計画作成地区数

特別緑地保全地区及び緑の保全地域に指定された緑地は、恒久的に緑の保全が図られることとなりますが、将来に向けて良好な自然的環境を維持していくためには適切な管理が欠かせないことから、動植物の調査等を踏まえて管理のあり方を定める必要があります。

このため、市では地域住民等との協働により保安全管理計画を作成し、保全緑地の適正な維持管理に役立っています。

また、作成した管理計画に基づいて、下草刈りや竹林の伐採等、保全緑地の適正な維持管理を実践するために、この管理計画づくりに参加した方々を中心とした市民活動団体が誕生しています。

これまでに、王禅寺東特別緑地保全地区など 24 地区の保安全管理計画を策定しました。